

留 学 報 告 書

平成 27 年 8 月 7 日

学 部 法 文 学 科・課 程 言 語 文 化

氏 名 岡 田 紗 季

※ 留学先大学での成績証明書を添付すること。(島根大学に直接送付される場合はよい)

1. 留学先大学・学部 国名 ドイツ

大学名 トリアー大学

現地到着日 (2014 年 9 月 29 日)

授業開始日 (2014 年 10 月 1 日)

現地出発日 (2014 年 7 月 29 日)
5

授業終了日 (2015 年 7 月 24 日)

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

大学へのネットによる学籍登録、学生寮の敷金の振込み、
保険の加入 (ドイツの保険に加入するまでの期間)、残高証明書の
作成 (英語)、航空券の購入、日本学料の学生へのメール

3. 自宅から留学先大学までの交通手段 (乗物の種類, 乗り換え地, 所要時間)

自宅からリムジンバスで 2 時間弱かけて羽田空港へ行き、
国際線ターミナルから全日空フランクフルト行きに乗り 12 時間ほど
フライトをする。フランクフルト空港からフランクフルト中央駅まで地下鉄で 20 分
かけて初動し、駅近くのホテルに 1 泊した。次の日に RE (快速列車) で
Koblenz へ 2 時間かけて行き、乗り換えをして RE の Trier 行きで 1 時間半かけて行く。
Trier 中央駅から大学まではバスで 15 分。

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

入門セミナーの期間中にチューターから渡される書類にサインする。

書類内容は銀行の開設、ビザの申請、保険の加入、学生証の発行

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

オリエンテーションの初日と最終日にプレースメントテストが行われる。最初のテストでオリエンテーション中のクラスが決められ、最終日のテストで冬学期中のクラスが決められる。オリエンテーションは午前中はドイツ語の授業が行われ、午後は書類の作成、大学案内、学生寮の注意について説明される。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

授業は先生によってやり方が違うが、私の先生は主にプロジェクターを使って授業をすることが多かった。また、ただ先生の話を聞くだけでなくクラスの人とグループディスカッションをすることもよくあった。テストは文法、リスニング、作文、読解の4部構成である。テストは鉛筆ではなくボールペンを使うことが決まりとなっている。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

音声学が特に良かった。ドイツ語の難しい発音を練習したり、アクセント・リズム・声のトーンの使い分けについて詳しく知ることができた。また、先生は日本人と結婚している人なので日本人が注意すべき発音についてよく教えてくれた。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

島根大学の学生は学生寮が確保されている。ちつある寮のうちどれに住むかは大学から提示するまで分からないが、ほとんどの寮はキッチン・バスルームが付いた一人部屋となっている。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）

寮に入れる日はあらかじめ決められているので自分で Hausmeister (管理人)

に連絡して金建をもらう日を決めるほうがよい。寮の門限はない。

私の寮はオートロックではなかったが、もしオートロックの寮に入ることになったら金建は常にチェックしておいたほうがよい。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

(どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等)

Sparkasse という銀行を開設し、家族にそこにお金を振り込んでもらった。だが不便な時も何度かあったのでシティバンクを日本で作っておいたほうがよいと思う。日本のマスターカードを使える場所はかなり限られていたが、そこに奨学金が振り込まれることになっていたので、使える店では必ずマスターカードで支払いをした。

11. キャンパス案内 (どんなとき、どこへ行けばよいか等)

わからないことがあれば日本学料の学生に聞くとよい。印刷機やスキャン機図書館でできる。キャンパスの近くに郵便局や本屋、保険会社があるのでとても便利だった。

12. 現地案内 (買物、銀行、レストラン、理髪店、美容院等の様子)

トリーアは小さい町なので中心街に行けばスーパー、デパート、美容院などがある。学生言正でトリーア市内のバスと電車は乗り放題なので時間があれば色々な所に行ってみるとよい。クリスマスの時期になると街中クリスマスの装飾だらけになり、1年のうちで最もにぎやかになる。

13. 失敗談 (どんな小さなことでも)

市内バスはほぼ定刻に来るのだがたまに早く来てそのまま時間が定刻にならなくとも行ってしまいうことがあったので必ず6~7分前にバス停にいなければならなかった。また、ドイツの鉄道や空港はよくストライキをやることかあるので何ヶ月も旅行の計画を立てることは難しかった。

14. 病気になった場合の対応について (医療費はどのようにになっていたか、保険等はどのようにしたか)

10ヶ月病気になることにはなかったため特に困ったことはなかった。

私は AOK という保険に入っていて、費用は 8 千円ほどだった。

15. お世話になった方々

日本学料の学生には生活面・学習面共に大変お世話になった。
また日本学料の香月先生には学習面や将来についてよく話を
聞いてもらい、感謝しています。

16. 留学先国内旅行について (場所, 手段, 費用, 旅行社等)

ボン、ハンブルク、ミュンヘン、ベルリン、ドレスデン、マイセン、
コッホムなど様々な所へ旅行した。ホテルは Booking.com で
予約をした。移動は主にドイツ鉄道 (DB) だったが、バス
利用することもあった。ドイツ鉄道で Bahncard を購入すると、チケットが
25% または 50% 割引されるのでぜひ利用してほしい。

17. 気候と服装について

ドイツの冬はとても寒く、特に 12 月と 1 月は雨や雪の日が続くので
厚手のコートを持っていくほうがよい。夏は乾燥していて日本よりも
過ごしやすかったが早朝と夜は少し寒かった。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの (学用品, 衣服, 食品, 薬, 運転免許証等)

病気がちになりやすい人は薬を持っていくとよい。日本食はトリーアの
アジアショップで買えるが、もちろん値段は高い。
学用品は文法書を持っていくことをオススメする。授業でわからなかったところ
を後で確認するのに便利である。

19. 留学に際し最も役立つ本は (専門書, 旅行案内書を含めて)

ドイツ語文法書、地球の歩き方 (ドイツ)

20. ホームステイの依頼方法

春休みの間、オーストリアの語学学校に通いながらホームステイをした。

ホームステイ先は語学学校から紹介してもらった家族のメールアドレスに自分でメールを送って見つけた。

21. 留学費用について (往復)

1) 旅費	(往) 220,000 円, (復)	_____ 円
2) 準備費用		<u>40,000</u> 円
3) 大学へ納入する費用		<u>90,000</u> 円
授業料 (年間合計)		<u>0</u> 円
保険等その他の費用		<u>100,000</u> 円
4) 住居費 (光熱費等含む)		<u>400,000</u> 円
5) 衣服代, その他雑費		<u>200,000</u> 円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等		<u>23,000</u> 円
7) 留学先国内旅行費用		<u>200,000</u> 円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額		<u>1,400,000</u> 円
現地通貨	135 日本円換算	_____ 円

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

ドイツで買ったいらぬ服などは次来る人やまだ残る留学生にあげた。

お土産や学校で使った教科書などはドイツ郵便局 (BHL) から送った。

5kgまでで43€, 30kgまでで124€だった。荷物には特に問題がなければ1週間ほどで届く。ちなみに日本からドイツへの船便はあるがドイツから日本への船便はない。

23. 留学して得たこと (全般についての感想文)

この10ヶ月間は自分が想像していたよりもはるかに濃い留学だった。
始めは聞き慣れないドイツ語を必死で聞き取ろうとしたり、他の留學生とのグループディスカッションで自分の意見を伝えるのに無我…中になったり
と言行錯誤の毎日だった。辛いことやわからないことが多すぎて投げ出し
たくなる時もあったが、その度に同期の友人やドイツ人に励まされ、
頑張ることができた。また、オーストリアではホームステイ先の家族
とお互いの国の文化について話したり、私が日本食を作っているまう
ことにより、コミュニケーションをとることもできた。留学中に会った人々
は私にたくさんのことを教えてくれた。本当に感謝している。

学習面では、留学前まで男性・女性・中性名詞を覚えるのに苦労していた
が、ドイツで色々な単語を繰り返して何度も見て、話すことにより、自然と
覚えられるようになった。タンDEM (ドイツ人とマンツーマンでやる勉強) では
私のドイツ語の勉強を見てもらうだけでなく、逆に私がドイツ
語で日本語を教えたり、ただおしゃべりをするだけでもとても勉強になっ
た。香月先生に頼まれて1年生の補講をするようになった時、自分にできるの
かと不安になったがむしろ自分のドイツ語の上達の手助けになり、さら
には日本語学に興味を持つようになった。留学をしなければ出会わな
かた人、学ばなかつたことはたくさんあるだろう。そして改めて日本の
良いところ悪いところには気づけなかつたと思う。だから留学を勧め
てくれた先生方、応援してくれた家族と友人には感謝している。
この留学での経験を生かしてこれからは日本だけではなく海外
でも活躍できる人になりたいと思う。